

令和3年1月28日

所 属 歴史博物館

所属長 伊元 俊幸

電 話 06-6489-9801

「疫病から家族を守りたい」という願いが込められた木の札を、
歴史博物館で展示中！



そみんしょうらいじゅふもっかん

1 「蘇民将来呪符木簡」を歴史博物館で展示中！

尼崎市内の遺跡から出土した「蘇民将来呪符木簡」3点を、歴史博物館の2階ホールで展示しています。これらは3点とも鎌倉時代のものです。

2 蘇民将来呪符木簡とは？

蘇民将来呪符木簡とは、人類が古来より苦しめられてきた感染症(疫病)から家族を守るため、家の軒先に掲げられたおまじないの木の札です。

「蘇民将来」とは人の名前。その昔、大男に化けたスサノオノミコトが、一晚の宿を蘇民兄弟に願い出たところ、裕福な弟がそれを断った一方、貧しい兄の蘇民将来が快く迎え入れ、質素ながらも心のこもったもてなしをしました。大男は翌朝、「蘇民将来子孫家門也」と書かれた札を兄に渡し、「この札を家に掛けておけば、家族をどんな疫病からも守ることができる」と言い残して旅立ちました。そして疫病が村を襲ったとき、兄の家族だけが助かった…という伝説があります。

3 「疫病から家族を守りたい」という願いを込めて

この伝説は、日本各地に伝わっており（地方によって内容が異なります）、展示している鎌倉時代の木簡にも、人々の「疫病から家族を守りたいという」切なる願いが込められています。

時代は変われど、人々の願いは変わらず。

歴史博物館では、「令和のこの困難な状況から、人々を守りたい」という願いをこめて、3点の木簡を展示しています。感染予防措置をとりながら開館中です。（休館日／月曜日）